

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHに関わる法令の意義を踏まえGHの運営上の方針、目標を具体化して介護従事者に、日常的に話をしている。	法人の理念を共有し、朝礼時に職員全員で唱和している。職員も良く理解している様子が窺えた。ホーム独自の目指す介護も文章として表示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームが地域の一員である意識を持って、隣近所との付き合い、地域の人達が気軽に立ち寄れるよう、地区回覧等で周知している。	行政区に入区し区費も支払っている。回覧板も回ってきており職員も見ることが出来る。ホームからのお知らせは区長を通してお願いしており、近所の方も気軽に立ち寄り利用者の顔も覚えていただいている。地区社会福祉協議会主催の行事にも参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要望(見学、認知症の講話等)に応えられるよう対応をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催においてホーム近況の報告し家族からの意見を頂き運営に役立っている。	2ヶ月に1回開催されている。家族代表、区長、民生委員、広域連合及び市担当部署職員で構成されている。出席状況は良好である。区長はじめ出席者からの提言もあり双方向での意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡を密に取り、ホームの近況の伝えながら、ケアサービスの取り組みについて助言等頂いている。	市が主催するグループホーム連絡会においてお互いに情報交換をしている。市の介護相談員2名が月に2回来訪し、利用者とは接した中で気づいた点を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束をしないケアサービスを認識してケアの実践をしている。会議で学習会を行い防止に努めている。	毎月の定例会で拘束のない介護を目指して学習をしている。各階の出入り口には小さな鈴が取り付けられてあり開閉に気づくように工夫されている。玄関は自動ドアで内側からは自然には開かないようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外での研修を行い職員が、虐待防止の認識を持ち仕事に従事している。管理者は日々の観察と防止策に努めている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の会議の場を利用して職員に周知している。又関係者と必要な支援について話し合いと支援の活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご入居者、ご家族に理解できるよう十分な時間を取って説明し不安や、疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者、ご家族の意見要望を取り入れるため家族アンケートの実施やご意見箱の設置し意見、助言を頂き介護サービスに当たっている。その結果をご家族に直接、又は運営推進委員会で周知している。	利用者の半数以上の方は意見を伝えることができる。言語表現の不得手の方には表情や動作を見て確認している。家族には年1回アンケートを実施して意見を頂いたり、意見箱を活用している。それぞれの結果は運営推進会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談の機会を設けて意見を聴取し積極的に反映できるよう努めている。	毎月の定例会や3ヶ月ごとの管理者との面談で職員からの意見や提案を聴き運営に反映できるようにしている。またユニットごとに目標や課題を決め、話し合いもしている。職員は管理者との面談でコミュニケーション能力の向上を図るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持ち仕事の出来る環境づくりをし職員の努力を認め、昇格、昇給が出来るよう体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの段階に応じた研修の機会を作り、その内容を、他職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流により各事業所の利点含め周知し、ホームの質の向上にも参考にしている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子や発言する言葉に耳を傾け、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回のアセスメント時に、ご家族からの要望、意見を参考にしてケアプランを作成し、その都度報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の近況状況、又は変化時には必ず家族連絡を行い、必要とする支援について、ご家族と共に話し合い対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者一人ひとりの人格を尊重して家族の一員の関係づくりを築いている。家事等を入居者同志やスタッフと行うことで関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを考慮し、気軽に訪問でき、ご本人との絆が持てる環境づくりを心掛けている。ご入居者の様子の周知を行い、良い関係を大切にしていきながらご入居者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族からの情報で得たことを大事にしている。馴染みや思い出深い場所の提供に努めている。	友人や知人の来訪がある。馴染みの美容院に出かけている方もいる。利用前に住んでいた家の近所をドライブしたり、行きつけだった公園などに外出することもある。一人ひとりを大切にしたいという思いで日常的に関わっている様子を垣間見ることができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者が孤立しないよう、ご入居者同士のかかわり合いが持てる様配慮支援している。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了においても継続して、ご家族の相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者、ご家族の意向を聞き、希望に添えるよう努めている。	食事の希望や味付けの感想などその都度聴き、入浴時間や衣服の選択は利用者自らの希望で行なっている。買い物や外出なども利用者の希望に沿っている。大勢の中では言わない方もいるので各自の居室で伺うこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者の生まれてからこれまでの生活歴から本人にとっての経験や出来事を知り、又慣れ親しんだ生活が継続できるよう家族に聞くなどして心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々観察の中から、ご入居者個々の心身状況や暮らしのなかでの気づきに付いて職員間共有し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で、ご入居者の現状把握し、ご本人の課題を見つけ改善できるよう努めている。必要に応じて、ご家族の協力を得ている。	職員は利用者1~2名を担当している。ユニット会議で担当以外の職員からも情報を得て、計画作成担当者が作成している。モニタリングはチェック表を用いてその都度行なっている。チェック表を用いることで職員の気づきを向上させるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を生かしながら職員間で情報の共有し変化があれば介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況の状況を常に把握してご本人が希望されることは出来るだけ応えられるようしている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者の生活の広がりを持ってもらうため、地域との関わりを大切にしている。地域行事への参加や、地域の方々が気軽に立ち寄れるよう見学会の開催や行事へのお誘いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とかかりつけ医との関係を大切に心身の異常発生時には気軽に相談できる関係を築きご入居者の健康維持が出来るよう努めている。	かかりつけ医への受診は原則家族が行うことになっているが、職員が付き添う場合もある。契約医師が月1回往診してくれる。訪問看護ステーションとの契約もあり、毎週同一看護師が訪問し、バイタルサインチェックや医療処置の相談にのっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時には、ご入居者の一週間の心身状況を伝えると共に、些細な変化は電話連絡を行い適切な看護や、指示が受けられるよう密に情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、医療関係者の関係を大切にし、相談、情報交換の場に参加し、ご入居者の対応について両者間の連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化をご家族の面会を利用し報告をしている。他関係者、各種関係者とも情報共有しながら対応している。	開設1年余のため重度化への対応をしたことはない。緊急対応マニュアルに基づいて学習を進めている。契約している訪問看護ステーションとの関係も密にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修参加や会議等の時間を使い急変、事故マニュアルに添った訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い職員は様々な想定での避難方法を訓練している。又近隣住民の協力や参加を頂いている。	年2回消防署の立ち会いで実施しており、夜間想定も1回行った。隣家の方や区民の参加もある。地区との防災協定の締結に関しては今後検討の予定である。備蓄品の確保は3日分あり、法人本部が期限に応じて管理をしている。	

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あらゆる場面で個々を尊重し、プライバシーを守る事を大切に言葉かけや対応に配慮をしている。	個人情報の保護も含めて運営規定に記載されており、マニュアルの作成もされている。年間学習計画が作成されており、計画にそって学習を進めている。プライバシーの保護や個人の尊重に反する言動が見られた時には、別室にて管理者が注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押し付けにならないよう、ご入居者が気軽に思いや自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の思い込みや、押し付けをする事無く、ご入居者本人の声を大切に、希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者一人ひとりの希望にあわせて身だしなみやおしゃれができるようご本人に選んでいただけるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けを一緒に行って貰っている。季節に合わせた食事での楽しみが持てるよう努めている。	献立は本部の管理栄養士が立案している。調理時は体調の良い利用者が皮むきなどを手伝っている。片付けは2~3名の方が決まって手伝っている。行事食や季節の野菜を取り入れた献立も豊富であり、ほとんどの方が普通食を召し上がっている。現在、2名の方にミキサー食での対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給の状況が関わる職員間で把握されている。禁止食には代用品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者の力を引き出しながら、毎食後口腔ケアを行い清潔の支援を行っている。入れ歯の手入れ、ポリドントは週2~3回行っている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者の排泄パターンを知り、排泄の自立に向け、自尊心に配慮しながら声掛けや誘導を行うようにしている。	排泄チェック表を用いて各自の排泄パターンを把握している。自立の方が6割以上で全介助の利用者はいない。夜間、方向を間違えやすい方のために、部屋の正面に方向を示す矢印を見やすくつけ工夫されていた。一人ひとりへの対応を小まめにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況把握に努め食事や活動の支援をおこなっている。便秘気味の方は主治医と相談し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望に添えるように努めている。 (時間、回数、曜日)	入浴日は特に決められていず、日勤帯ならいつでも入れる。拒否される方には時間をかけさりげなく勧め、週に2~3回は入浴できるように心がけている。手作りの足ふきマットを使用しており、一人ひとり入浴の都度交換して感染予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを理解し一日のリズムを作り、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容を全スタッフが理解できるようまとめて表にしており、症状の変化時についての対応も日常的に共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を理解し、ご入居者の得意な事を生かした役割作りをしている。誕生日には食べたい物聞き希望に添えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する食事が出来るよう外食の機会を設けている。個人の行きたい場所を年間計画に盛り込んでいる。	利用者の希望を年間計画に組み込み支援している。回転寿司やラーメン店などへの食事外出が多い。主要道路をはさんだ向かい側に大型店舗があり、買い物に徒歩で行くことができる。市内の名所への花見や紅葉狩りなどの行事外出も年間計画に組み込んで実施している。	

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭の管理を行っている。ご本人希望の際には、ご本人と共に買い物に出かけ、自分で金銭の出し入れを行って貰っている、必ず見守り支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は要望の応えている。FAXにて遠方からの文書に関して、本人にお渡しし、再度こちらからFAX対応を行っている。今の所手紙のやり取りは無いが、その際には支援するようにしていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間において日々職員が、環境整備を行っている。季節を感じる装飾をしたり、写真を貼ることで会話が弾むよう工夫している。	窓が広く採光、見晴らしともに良い。職員手作りの浴室・居室のマークやのれんが掛けられていて暖かみを感じられる。壁には利用者の作品や見慣れた風景の写真が貼られていて季節感を味わえるように工夫がされている。穏やかで居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、テレビ前のソファ配置の工夫により、居心地良い場所を作っている。気の合った仲間と会話ができる空間の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見慣れた物、使い慣れたもの等で、ご本人の安心を保ち、居室内の安全も確保し心地良く過ごせる場を常に支援している。	家で使用していた馴染みのタンスを置いたり、家族の写真を飾り、安心感を保つ工夫がされている。2名の方が家から仏壇を持ち込んでおり、朝・夕お参りをしているという。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の持っている力を引き出しながら、自立した生活維持できるよう声かけ、支援を行っている。		